

◆ 体育・保健体育の授業づくりに向けて

(「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業に向けて)

鹿児島教育事務所



これから目指す授業について、どんなことを意識して工夫・改善を図ればいいのですか？

小学校では「**全ての児童が、楽しく、安心して運動に取り組むことができるように改善を図ること**」が大切ですね。

また、児童生徒全てに「**体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず**、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるように配慮する」ことも大切ですね。



体力向上については、学習の結果として体力の向上につながるよう改善する必要があります。



—単位時間の学習過程で留意すべきことは？

学習過程については、**自己の課題解決に向けて主体的に学習や、仲間と協力して課題解決する学習**を引き続き重視することです。

また、三つの資質・能力を身に付けるために、その**関係性を重視**した学習過程を工夫する必要があります。



そこで単元ごとの指導計画を作成する時に、「知識及び技能」,
「思考力, 判断力, 表現力等」, 「学びに向かう力, 人間性等」の具体的な指導内容を計画的に配当することが重要です。



「単元を通して、三つの資質・能力を身に付けさせよう」ということですね。

そうですね。児童生徒が「生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を身に付けることを目指した授業改善を進めることが大切ですね。



確認しておこう

「主体的・対話的で深い学び」について、各校種の学習指導要領解説 体育（保健体育）編に記載されています。

【小学校学習指導要領解説 体育編】

- 第一章 2-(2)-エ 指導計画の作成と内容の取扱いの改善
- 第三章 1 指導計画の作成

【中学校学習指導要領解説 保健体育編】

- 第三章 1 指導計画の作成



◆ 体育・保健体育の授業づくりに向けて【運動領域・体育分野：導入編】

「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業に向けて「★ここ、ポイントです！」のフレームがキーワードです。

鹿児島教育事務所



授業を始める前に「OKチェック」しよう！

【教師】

- 校庭の状態はOKです
- 体育館の床はOKです
- 教材・教具の準備はOKです
- 板書・ICT機器等の準備はOKです

【児童生徒】

- 健康状態はOKです
- 服装・帽子はOKです
- 学習用具の準備はOKです

導入の流れ【例】

1 あいさつ

【フレーム1】：見学者への指示を忘れないように！（「する」「みる」「支える」「知る」の視点で）



2 健康観察

【フレーム2】：体調の把握は確実に！

3 準備運動・補助（補強）運動

【フレーム3】：各運動の見届けを行い、適時、運動のポイントの指示を！

- ・正しく運動していますか？
- ・補助（補強）運動は主運動の特性を捉えていますか？
- ・補助（補強）運動の種類や強度は適切ですか？

見ているだけではダメダメ！

4 前時の振り返り（試行）

本時にチャレンジする技能を試してもいいかな？

【フレーム4】：「★ここ、ポイントです！」

学習課題（めあて）を設定する前に、児童生徒自身が前時を振り返り、本時に学習する内容を実際に試すなどして、自分なりの学習課題（めあて）のイメージをもったり、決定したりすることが大切です。



5 学習課題（めあて）設定

必ず、提示！

【フレーム5】：「★ここ、ポイントです！」

フレーム4を基に、数名の児童生徒から自分なりの学習課題（めあて）を発表させ、それらの内容をまとめながら共通の課題（めあて）を提示すると、児童生徒にとっては授業の最終ゴールをイメージしやすくなります。

※ 単元計画によっては、連続した時間の学習課題（めあて）を提示することがあります。そのような時は、個人（チーム）課題を再確認する場面を工夫する必要もあります。

展開の流れ【例】

6 試行（技能等の確認及び試しのゲーム）



【フレーム6】：「まずは、やってみよう！」「できる動きから」の気持ちで、自分の技能等を確認しましょう。球技の学習時では、ゲーム様相をチームの仲間と確認することも大切です。

7 相互学習（練習）



【フレーム7】： 「★ここ、ポイントです！」

児童生徒の動きの変容を促したり、技能のポイントやコツを理解させたり、運動の楽しさを味わわせる最大のチャンス！です。
そして、運動量の確保も期待できます。

そこで「4つの『ながら』学習」を提案します。

- ① 動きながら「教え・教えられる学習」
- ② 自他の動きを見ながらの学習（ICT活用等）
- ③ 称賛し合いながらの学習
- ④ 汗をかきながらの学習

動きながら「教え、教えられる学習」とはどのようにするのですか？



例えば、戦術等を身に付ける学習場面で、チームの一人一人がどのようにボール操作やボールをもたない動きをすればよいか、リーダー等が個々の移動の仕方やボール操作のタイミング等を指示し、実際に動きながら確認していく学習です。



はじめはゆっくりとした動きから始め、徐々にその動きを速くして、スムーズに動けるようになったら、ディフェンス等をつけながら戦術等を身に付けていく学習です。

この学習は、個々の技能の程度や戦術の難易度に応じて、作戦板等を用いるなど、イメージをもたせてから取り組ませることも大切です。

8 成果の確認

フレーム7の時間に設定してもOKです！



【フレーム8】：チーム・個人として授業前と比較してどのようなことがどの程度できるようになったか、確認できる大切な時間です。

単元目標の達成に向けても、どんなことが、どのくらい「できるようになったか」、「できそうになったか」についての確認が大事ですね。



終末の流れ【例】



9 学習のまとめ

【フレーム9】： 「★ここ、ポイントです！」

学習課題（めあて）に対するの答えになります。
学習を振り返り、自分なりの表現で考えさせることが大切です。内容に応じて、友達と話し合いを行わせてから、まとめさせてもいいですよ。

【授業でまとめに取り組みさせる際のポイント「3つのJ」】

1 時 間 2 条 件 ※3 字 数

【例：ボール運動】

めあて「みんなが楽しめるゲームをするためにはどんな工夫すればいいだろうか」

- 1 時 間 3～5分
- 2 条 件 人数や得点、時間及び場の広さなどの観点で（2つ以上）
- ※3 字 数 （40～60字程度）※ 発達段階に応じて設定すること

10 学習の振り返り



【フレーム10】： 「★ここ、ポイントです！」

振り返りは児童生徒が学び方を自己評価することで、学んだことへの充実感・達成感を味わったり、次時への意欲の高揚につながったりするものです。

振り返りの
観点例！



★ 学習の行い方を振り返らせる観点の例

- 「どうしたら分かったかな」
- 「どうしたらできるようになったかな」
- 「もう少し工夫すべきところはないかな」等

★ 自己の変容を振り返らせる観点の例

- 「何が分かるようになったかな」
- 「何ができるようになったかな」
- 「本時の学習で何が変わったかな」等

★ 次時の学習へ意識をつなぐ観点の例

- 「次はどんなことに挑戦しようかな」
- 「次はどんな楽しみ方にしようかな」等

11 次時の学習の確認

【フレーム11】：単元計画を黒板等に貼付しておき、次時の学習内容を確認したり、フレーム10の振り返りから、個人課題の確認をしたりすることも大切です。



12 整理運動

【フレーム12】：つつい忘れがち！ ストレッチなど行い、運動後のケアの大切さも理解させましょう。

13 あいさつ

【フレーム13】：あいさつの前に、けが等の有無を確認し、必要に応じて指示を行うことが大切です。

◆ 体育・保健体育の授業づくり（例）

【運動領域・体育分野】

（「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業に向けて）

【一単位時間における基本的な学習過程の例】

鹿児島教育事務所

（導入）

- 1 あいさつ
- 2 健康観察
- 3 準備運動・補助運動
- 4 前時の学習の振り返り
or 試行
（前時の振り返りを基に）
- 5 本時の学習目標（課題）の設定

〔目標（課題）設定とやる気づくりの観点〕

- ① 目標達成のイメージをもたせるために
 - ICT機器等の活用
 - モデル提示・示範の実施
 - 前時のまとめの想起 等
- ② 課題解決の道筋をもたせるために
 - 学習課題に対する自己の課題を仮説文で表現
（例：〇〇を△△すれば、□□になるのではないかな？）
 - 本時に取り組む技能の試行 等



（展開）

- 6 試行
（技能の確認及び試しのゲーム）
- 7 相互学習（練習）
※ 動きの課題の修正
〔動きのこつや技能のポイントを
探求する場面〕
 - ・他者と関わらせる必要性はあるか
 - ・ペア、グループどちらがよいか
 - ・グループの場合は何人が適切か
 - ・方法及び時間は妥当か 等

「4つの『ながら』学習」

- ア 動きながら「教え・教えられる学習」
（動きのポイント・こつ・楽しみ方等）
→ 学習の目標・課題の明確化
- イ 自他の動きを見ながらの学習（ICT機器活用等）
→ 動きの変容
- ウ 称賛し合いながらの学習
- エ 汗をかきながらの学習



8 成果の確認



〔成果の確認場面における留意点〕

- ① 技能の程度に応じた距離・人数・時間・ルール等の設定
- ② ゲームや試技等の難易度の確認
- ③ チェックシートの活用
（回数、時間、得点数等の記入等）
- ④ ICT機器等の活用
- ⑤ 確認ポイント（特に取り組んだ内容）



（終末）

- 9 学習のまとめ
 - 10 学習の振り返り
- ※「まとめ」と「振り返り」の違いに気をつけよう！
- 11 次時の学習の確認
 - 12 整理運動 ← 忘れずに！
 - 13 あいさつ

〔学習のまとめ〕

学習課題に対する答え（「三つのJ」を取り入れて）
→ まずは「自分の言葉（表現）」で、そして
みんなの言葉（表現）をまとめて提示

〔学習の振り返りの観点〕

- ★ 学習の行い方を振り返らせる観点の例
 - 「どうしたら分かったかな」
 - 「どうしたらできるようになったかな」
 - 「もう少し工夫すべきところはないかな」 等
- ★ 自己の変容を振り返らせる観点の例
 - 「何が分かるようになったかな」
 - 「何ができるようになったかな」
 - 「本時の学習で何が変わったかな」 等
- ★ 次の学習へ意識をつなぐ観点の例
 - 「次時はどんなことに挑戦しようかな」
 - 「次時はどんな楽しみ方にしようかな」 等

